

# 瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT  
2010.6. VOL.12

contents

極 研究&教育  
Current topics in research and education

人 時の人  
People in the news

楽 学生生活  
Campus life

和 お知らせ  
Information

## 就任ご挨拶 戸荻 創 理事長・学長

本年4月より公立大学法人「名古屋市立大学」の学長を拝命しました戸荻 創でございます。  
当職は、1970年(昭和45年)に本学を卒業し、小児科学教室に入局致しました。我が国では「新生児学の父」と評されておられました故小川次郎名誉教授、次いで先天代謝異常症の分野で偉大な足跡を残されました故和田義郎名誉教授(後に本学学長に就任)の薫陶を仰ぎ、新生児の脳障害の予防に関する研究を軸として、臨床医に徹して参りました。

2003年(平成15年)より、上田龍三病院長(現名古屋市病院局長)の元で副病院長を4年間、その後病院長を3年間、まさに満身創痍の心境にて担当致しました。折しも、現代は、地球規模の経済危機、地球温暖化などの急激な環境危機、小産少子に伴う社会危機、国公立大学での運営危機、医師不足による医療崩壊危機、等々未曾有の危機が溢れております。これ乗り越えるためにも、大学運営という大役を仰せつかりました以上、不退転の決意をもって、「温故創新」の精神を忘れることなく、「Challengeする名古屋市立大学」を目指したいと存じます。

どうかよろしくご協力賜りますようお願い申し上げます。



戸荻 創 理事長・学長

## 就任ご挨拶 山田 和雄 病院長

4月1日から戸荻創前病院長の後任として病院長を拝命しました。どうぞよろしくお願い致します。

名古屋市立大学病院では、「地域の中核医療機関として、高度かつ安全で開かれた医療を提供するとともに、質の高い医療人を育成する」という理念を高く掲げ、21世紀の高度先進医療を実践しています。大学病院の新築が完了して3年が経過しますが、この間は病院機能の向上に心掛け、地域がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、病院機能評価第5版認定など大学病院として必須の機能を取得してきました。

さて最近の高度医療に関するキーワードは「チーム医療」です。すでに大学病院では救急部、手術部、ICU、CCU、NICU、一般病棟、外来など多くの場所で、医師、看護師、薬剤師、コメディカル、事務部門などが協同して患者さんの治療とケアにあたるチーム医療を実践しています。とくに最近では、がんの総合的診療、緩和医療、栄養サポートチーム、新生児治療、重症患者治療、総合的リハビリテーションなどにチーム医療が力を発揮しています。このチーム医療をサポートするため、全国の大学病院に先駆け6年前から電子カルテを導入し、1年前にはシステム更新も行い益々使いやすくなっています。ぜひ多くの皆様が大学病院の今後の発展に関与していただくことを祈念しております。



山田 和雄 病院長

### “瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

## 連携病院

### 連携病院 —地域医療を担う拠点・中核病院

#### 岐阜県立多治見病院 — Q:病院の特色は?

—地方独立行政法人としての出発—

岐阜県立多治見病院は平成22年4月1日から地方独立行政法人として新たな一歩を踏み出しました。今年2月に完成した新棟には一般病棟のほか結核、精神、感染、緩和の各病棟があります。また総合医局、研修医医局や看護師用のラウンジなどもあり、職員一同新鮮な気持ちで日々業務に励んでいます。今回の地方独立行政法人化では、従来県に依存しがちであった体質からより自律的な運営が可能となりました。どんな組織も同じですが、良い仕事をするためには職員が明るく、楽しく、やりがいと誇りを持つことが大切です。今までの公務員の枠から一歩踏み出してより活躍できるような職場環境と待遇を整備していく所存です。名古屋市立大学からは約40名程度の医師が中核的な活躍をいただいています。今後とも皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



地方独立行政法人岐阜県立多治見病院 理事長兼院長 原田 明生

#### 厚生連安城更生病院

— Q:病院の特色は?



—西三河南部医療圏の中核病院—

当院は昭和10年に相互扶助の精神のもと協同組合立病院として誕生し、平成14年に現在地に全面新築移転しました。

診療科数29・病床数692・職員1450名・医師数191名の陣容で、救命救急・地域周産期・地域中核災害医療の各センター及び地域がん診療連携拠点病院に指定されています。病床利用率99%・平均在院日数11日・外来患者数1800人/日・総手術件数6700件/年・救急車搬入4万台/年・分娩数1400件/年であり、人口百万を擁する西三河南部医療圏の中核的病院として急性期医療の更なる充実を目指しています。本年12月には31床増床し総合周産期母子医療センターの運用開始予定です。名古屋市立大学からは八田誠副院長をはじめ、麻酔科/救急科/泌尿器科/耳鼻咽喉科に医師派遣を頂き、初期臨床研修医を含め多くの医師が活躍しています。

安城更生病院 院長 浦田 士郎

## 教育

### 卒業式&入学式を行いました。

3月25日—桜を濡らすあいにくの雨の中、名古屋市公会堂で卒業式が行われました。医学研究科では博士課程51名、修士課程1期生15名、学部生76名がそれぞれの課程を修了し、新たな道へ巣立ちました。

名市大を卒業した誇りを忘れず、世界に活躍の場を広げ立派な医師、研究者となられることを教職員一同、祈念しています。

4月5日—95名の新生を迎えました。医師に求められるものは、社会の移り変わりとともに変化しますが、この日の喜びや医師を志した初心を忘れず、本学で有意義な6年間を送ってほしいです。

また、入学式後に行われた「新生保護者説明会」には、116名の参加をいただきました。入学後のカリキュラムや学生生活についての説明を行った後、高機能シミュレーターのある研修室、病院ヘリポート、図書館の施設見学を行いました。参加者からは「説明会があることでより大学に親しみをもてた。」「カリキュラムの説明があつてよかった。このような機会があること自体がとてもよい。今後も続けてほしい。」等の感想をいただきました。ご入学、おめでとうございます。

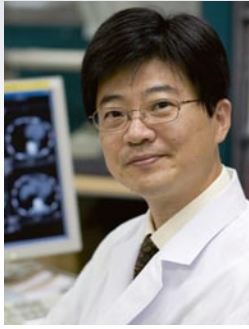


左上:卒業式の様子。博士課程修了者は、アカデミックドレスを着用して出席。

右上:修士課程1期生の学位授与式。

左下:4月9日、新生歓迎会。300名余りの先輩、教員に囲まれて。

右下:4月5日、保護者説明会。図書館、病院ヘリポート等を見学。



Shinsuke Iida

**飯田 真介**(いいだしんすけ) 腫瘍・免疫内科学(准教授)

専門:血液腫瘍学

私は、米国留学中の3年間を除けばずっと血液内科臨床に没頭してきましたが、同時にリンパ系腫瘍の分子病態解明と新規分子標的療法の開発研究にも力を注いできました。最近の10年間は難治性疾患である多発性骨髄腫と成熟T細胞性腫瘍に焦点をあてています。平成17年度から4年間は厚生労働省がん研究助成金による「多発性骨髄腫の発症と進展に関する分子基盤の解明と新規分子標的療法の確立に関する研究」班を、そして平成21年度以降は厚生労働省科学研究費の支援を得て「再発・難治性骨髄腫に対する至適分子標的療法の確立と生物学的治療予測因子の探索」班を引率させていただき、患者さんとともに骨髄腫に対する標準治療や分子病型毎の層別化治療の確立を目指しています。

近年の論文:Leukemia in press(2010), Clin Lymphoma Myeloma 9:154-9(2009), Cancer Sci 100:341-8(2009) & 99:2309-14(2008), Oncogene 27:63-75(2008), Leukemia 21:2344-53(2007), Eur J Hematol 79:2234-9(2007), Haematologica 92:115-20(2007)



Yasuaki Dohi

**土肥 靖明**(どひ やすあき) 心臓・腎高血圧内科学(准教授)

専門:高血圧、循環器内科、内科学

高血圧は、脳卒中・心筋梗塞等心血管病の危険因子です。しかし、初期に診断することは難しく、治療の開始が遅れることもしばしばです。私達は、高血圧発症の予測因子に関する研究を継続しており、脂質異常、体重増加、耐糖能異常、B型ナトリウム利尿ペプチド濃度上昇、脈波伝播速度増加等が独立した高血圧発症予測因子であることを見出しました。高血圧発症の高リスク群に対して生活習慣修正等の介入をし、高血圧の発症を未然に防ぐことができる時代が来るかもしれません。また、高血圧が発症すると、血管内皮機能障害を介して心血管病を引き起します。そこで、内皮機能障害のメカニズム解明やこれを修復するための治療法の開発にも取り組んでいます。

近年の論文: Am J Kidney Dis (Epub) (2010), Hypertens Res (Epub) (2010), Clin Exp Hypertens 32:1-7 (2010)



Hidefumi Sasaki

**佐々木 秀文**(ささき ひでふみ) 腫瘍・免疫外科学(准教授)

専門:呼吸器外科

2004年に米国ダナファーバー癌研究所との共同研究により肺癌における上皮成長因子受容体(EGFR)遺伝子のキナーゼドメイン内体細胞変異を同定して以来、EGFR関連遺伝子の変異や増幅などの異常に関する研究を行っています。2002年本邦で世界に先駆けて承認された肺癌に関する分子標的治療薬gefitinibは、その後の研究などで、我々が同定したEGFR遺伝子変異のある患者さんに極めて有効であることが分かり、一定のpopulationの進行肺癌患者さんの平均余命を倍以上に伸ばす成績も出ています。現在も米国研究所との共同研究も続けており、分子標的治療耐性に関わるとされるKrasやMET遺伝子などにも着目し探索を行っています。

近年の論文:Nature 463:899-905(2010) &450:893-898(2007)(共著), Lung Cancer 64:295-300(2009) & 58:324-328(2007) &55:129-130(2007) &54:103-108(2006) &51:135-136(2006), J Cancer Res Clin Oncol 135:313-318(2009) &134:1371-1376(2008) &134:569-577(2008), Int J Cancer 118:180-184(2006), Clin Cancer Res 11:2924-2929(2005), Nat Genet 39:347-351(2007)(共著), Nature Med 12:852-855(2006)(共著), Proc Natl Acad Sci USA 16:7817-7822(2006)(共著), Science 304:1497-1500(2004)(共著)



Tadashi Masuda

**増田 匡**(ますだ ただし) 脳神経生理学(助教)

専門:脳病態生理学

私は、大学院生時代の内包脳出血モデルの開発を通じて、病態生理学の奥深さと面白さを教わりました。また、米国留学中には2光子励起レーザー顕微鏡を用いて、脳虚血環境下でのミクログリア活動を研究し、ミクログリアの様々な興味深い性質に触れる事が出来ました。現在は、新生児期のミクログリアが脳の発生過程において果たす役割について、未熟児型脳室周囲白質軟化症モデル動物などを用いて研究を行っています。

近年の論文:Neuroscience Letter (2007), Journal of Neuroscience Research (2007)

## 新任教授のご紹介

### 機能組織学 — 鵜川 眞也教授

#### Q:今後の抱負をおねがいします。

本年2月1日付で機能組織学分野(旧解剖学第二講座)を担当させて頂くことになりました。前任の島田昌一教授とともに名市大に来てから13年になります。他学出身ですが、名市大に愛着が湧くようになりました。

学生時代は、週3回の部活動に明け暮れていました。大学卒業後は小児科医として勤務しておりましたが、一度ぐらいは基礎系の教室で実験してみたいと思い、クラブの先輩が主宰する解剖学教室の門を叩きました。教授室にふら〜とお邪魔して、研究テーマについて色々お話しをお伺いするつもりでしたが、その場で小児科医局に断りの電話を入れることになり、そのまま移籍することになりました。大学院2年時に名市大に参りましたが、基礎研究の面白さに目覚め、現在に至っております。

専門分野は、形態学的手法を取り入れた神経系・感覚器の分子細胞生物学です。これまでは、水素イオンに応答する陽イオンチャネル分子の単離と機能解析を中心として研究活動を進めて参りました。今後は、従来の仕事を継続しつつ、新しい分野にも対象を広げて行くつもりでございます。

現在の臨床研修制度が導入されて以来、若くて優秀な医師が基礎医学分野に入ってくるケースは激減し、解剖学の分野ではほぼ皆無になりました。しかしながら、解剖学は医学教育の原点でもあり、後進の育成と指導をおろそかにすることはできません。本学出身の若い先生方とともに研究・教育活動に邁進し、お互いに切磋琢磨できれば本望と考えます。よろしくご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



鵜川 眞也 教授

### 公衆衛生学 — 鈴木 貞夫教授

#### Q:今後の抱負をおねがいします。

本年4月1日付で特任准教授より昇進いたしました。公衆衛生学は集団の健康を扱う学問ですが、当分野が中心に取り組んでいる疫学は、健康問題の発生の分布から、関連要因やリスクの大きさを推計することで、問題解決の方法を検討する体系です。疫学者の課題のひとつに地域集団を追跡するコホート研究がありますが、新しい時代の要請に応えるために、遺伝子多型を含めた大規模コホート研究が始まりました。非常に長期にわたる研究ですが、死亡のみならず、がんやメタボリックシンドロームなどの生活習慣病の発生、QOLなどに、生活習慣、生育歴、心理社会的要因、遺伝子多型などがどのように関連しているかを、その交互作用も含めて評価するものです。この研究を通じて、集団の疾病予防や健康、QOL向上に貢献したいと考えております。教育においては、社会医学の観点からバランスの取れた学部教育、専門家・研究者育成を目指した大学院教育に、特にEBMはすべての医療人に必要なコンセプトですので、その教育には力を入れていきたいと思っております。実用的には、医学部、医学研究科全体として、筋の通った生物統計学教育の体系作りに向けて努力します。疫学的思考はあらゆる分野の先生方にとって身近なものであると考えています。研究チームに疫学者が必要と思われたときには、声をかけていただければ幸いに存じます。名市大での生活も8年目を迎えました。チームワークのよい環境で研究、教育に励んでこられたことを感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



鈴木 貞夫 教授

### 分子毒性学 — 酒々井 眞澄教授

#### Q:今後の抱負をおねがいします。

本年4月より分子医学講座分子毒性学分野を担当させていただくことになりました。本分野は日本で初めて医学部大学院に設置された毒性学専門分野であり、本学での活動の機会を与えていただき身の引き締まる思いです。社会の国際化・多様化にともない現代の毒性学分野では医薬品・食品等の安全性予測試験の確立が急務です。さらに、毒性学は医療においても極めて広い領域をカバーしています。従来法とトキシコゲノミクス(毒性ゲノム学)の解析手法を組み合わせたPredictive Toxicology(予測毒性学)のシステムを構築し、医薬品・食品・ナノマテリアル等の発がん性や遺伝子毒性のリスクアセスメントに応用したいと考えています。これらの研究では、遺伝子導入動物モデルを用いて食品油脂夾雑物、フラーレン・カーボンナノチューブ、脂肪酸をリードとする新規抗がん剤等を被検物質として乳腺・肺・大腸を対象臓器に発がん性等の評価と機序解析を行います。将来的には、化合物全般(含天然物質)を対象物質にすることが可能な毒性予測システムに発展させたいと考えています。加えて、薬物作用・体内動態および安全性を考慮した創薬分野においてもこれまで通り研究を進展させてゆきたいと思っております。本学における研究成果や学生教育を通じて医療・産業・行政分野において活躍する人材を養成し、様々な活動を通じて本学の発展と地域の活性化に貢献してゆきます。皆様には何かとお世話になることと思いますが、ご指導等何卒よろしくお願い申し上げます。



酒々井 眞澄 教授

## 名誉教授のご紹介

### 西野 仁雄 名誉教授

脳神経生理学前教授の西野仁雄先生が平成17年9月に学長に就任されてから早約4年半が経ち、本年3月に理事長・学長職を終え4月より名古屋市立大学名誉教授とられました。この機会に西野先生よりメッセージを頂きましたので、ご紹介させていただきます。

(脳神経生理学 教授 飛田秀樹)

\*\*\*\*\*

平成22年3月に理事長・学長職を終え、名誉教授の称号をいただきました。振り返ってみますと、和歌山7年、富山12年、名古屋22年の40年にわたる教育・研究生活でした。住めば都と言われますが、いずれの地におきましても、楽しく、また存分に働かせていただきました。これもひとえに、めぐり会えた皆様のご協力とご支援のお陰であり、大変有難く思っております。改めて感謝とお礼を申し上げます。

今、日本社会は揺らいでいます。すべてにおいて内向き志向が強く、長期的な将来像が描かれておりません。このままでは世界から取り残されていくと懸念いたします。そのような中、本年10月に名市大は開学60周年を迎えます。これを機に現在の立ち位置を見つめ直し、改革を断行し、次の50～60年に向けて力強く歩まれんことを願っております。

(西野 仁雄 名誉教授)



西野 仁雄 先生

### 上田 龍三 名誉教授

上田先生は、平成22年3月に腫瘍・免疫内科学分野教授を退官されました。退官後は腫瘍医科学分野特任教授を務められ、研究、教育に今まで同様、熱意を注いでおられます。先生はすでに平成20年4月から新設された名古屋市病院局長に就任され、市立病院を名古屋市有数の卒後教育病院として育て上げるために尽力してこられたが、同職を継続され、また名古屋市立大学の理事も引き続き務められるという、相変わらず大変お忙しい毎日です。

先生は40年にわたってがんについて研究され、とくにT細胞性血液がんに対する独自の抗体療法の基礎研究成果を臨床研究で証明し、平成20年に世界で初めて成人T細胞白血病(ATL)に対する臨床第I相試験を行い、その安全性を証明し、有効な治療法がなかったATLに対して明らかな有効性を示しました。多くの研究業績に対して平成21年10月日本癌学会より吉田富三賞が授与されました。国の仕事として、厚生労働省悪性リンパ腫治療班などの班長を歴任し、文部科学省がん研究特定研究のがん治療領域の代表、文科省学術審議会などの専門委員を務めておられます。学会活動では、平成20年10月に第67回日本癌学会学術総会会長を務め、名古屋に延べ約5000人の研究者を集め学問的討論を行い、かつ同時にCancer Weekと題して市民、患者さん、学生、医療従事者向けに講演会やセミナーなどを行い、幅広く交流しました。先生は「学生、若い研究者に接し、育てることが最もエネルギーを受けることだ」と言っておられました。まだまだ、先生は活火山であり続けるでしょう。

(文責:腫瘍・免疫内科学 病院教授 佐藤 滋樹)



上田 龍三 先生

### 鈴木 光 名誉教授

鈴木光名誉教授は平成元年8月に第一生理学教室(細胞生理学分野)教授として名古屋市立大学医学部に着任され、本年3月末で退職されるまで21年余り、植物機能を中心とした生理学教育と平滑筋生理学研究をもって本学に貢献されました。

鈴木先生は三河蒲郡のご出身で、横浜市立大学をご卒業後九州大学で理学・医学博士号を取得され、平滑筋研究の世界的先駆者である故栗山熙教授の下で平滑筋研究をスタートされました。以来一貫して細胞内電位記録法の卓越した技術と機能統合生理に対する深い洞察力を持ち、血管・消化管を中心とした平滑筋研究の歴史に残る数々の業績を上げられました。九州大学時代から本学在職前半の約10年には、抵抗血管の機能調節に重要な役割を果たしている内皮依存性過分極因子の本体と生理機構の解明に全力を注がれました。また在職後半の約10年には、古くから生理学者の注目を集めながらもその詳細が不明であった消化管蠕動運動の電気的ペースメーカー機構の本態を解明する成果を上げられました。分子生物学全盛の今日に至るまで、生理現象の解明には分子や細胞の機能的統合の理解が不可欠であるとの信念を貫徹された先生が研究の現場から離れられることは平滑筋研究における大きな痛手であり、在職最終年度に主催された2つの国際シンポジウムの参加者をはじめ内外から惜しむ声が絶えません。

退職後は先生のもう一つの研究人生ともいえる蝶類の観察、採取に多くの時間を費やされ、プレッシャーのない環境の中で趣味と研究を兼ねた日々を元気に過ごしたいと願っております。

(文責:細胞生理学 准教授 橋谷 光)



鈴木 光 先生

特集



Active!名市大生

—医学部に入ったらどんな勉強をするの?アルバイトやサークル活動をする時間はあるの?卒業後の進路は?—オープンキャンパスでお会いする高校生や保護者の皆さんからよく頂く質問です。医師に求められる能力・資質は、社会の変化によって絶えず変化します。医学部のカリキュラムも、どのような医療人を育成するかによって改善されています。そんな、最新の医学教育を受けている名市大生からCampus lifeについて報告してもらいました。今回は、勉強はもちろん、様々なフィールドで活躍する現役生と、今まさに医師としての第一歩を踏み出した臨床研修に励む卒業生、研究に邁進する大学院生をpick upしました!

学部生

### M2 伊藤 謙さん —充実した毎日!

こんにちは医学部二年の伊藤謙です。私の大学生生活について少し話させていただきます。

1年生の授業には「医薬看合同地域参加型学習」というものがあります。これは医学・薬学・看護の三学部の学生がグループとなって一つの地域を担当し、地域の方とともに地域のニーズを発見して、「学生だからできる」課題へ取り組むというものです。この活動を通して、将来必要となるチーム医療の基礎を少し学ぶことが出来ました。これは三学部がそろっている名市大ならではの特色であると思います。また、私はゴルフ部と医学部サッカー部に所属しています。大会に向けて同級生や先輩方とともに毎週汗を流して練習しています。楽しく、そして優しい同級生や先輩ばかりで、早くも僕の大学生生活になくはならない存在となっています。このような出会いも部活の魅力です。このほかにもアルバイトやボランティア活動と、授業後には興味がある様々なことに取り組んでいます。具体的には、野宿生活者の人たちの生活相談や医療相談をするボランティアです。私は将来、地域医療に携わりたいと思っていますが、この活動を通じて、漠然と考えていた地域医療というのが、少し具体的に見えてきました。

勉強ばかりになるのだろうか?と大学に入る前は心配していましたが、今は勉強だけでなく、このように自分のやりたいことも楽しみ、充実した日々を過ごしています。友達も皆それぞれの楽しみ方をしており、大学生生活には十人いれば十通りの楽しみ方があるのだと実感しています。大学に入ったらあれがやりたい、これもやりたいと皆さんも自分なりのキャンパスライフを思い描いていることかと思っています。その実現に向けて頑張ってください。

M2 伊藤 謙(愛知県立豊田西高等学校 卒業)



伊藤 謙さん

### M6 西郷 紗絵さん —在学中に海外留学も!「英国短期留学を経験して」



お世話になったDr.Limと心カテ室の前で

私は医学教育振興財団の留学プログラムで、3月に1ヶ月、ロンドン大学セントジョージ校循環器内科で臨床実習させて頂きました。掲示板で募集を知り、昔ロンドンに住んでいたため興味を持ったのがきっかけです。この留学は全国の医学部5年生の20名を英国内の医科大学に派遣するというものです。ロンドン大学では4名の学生が実習しました。循環器は病院全体の4分の1を占めています。指導医の先生やtraineeの先生方も温かく迎えて下さり、熱心にご指導頂きました。具体的には外来の見学や回診に参加したり、心カテーテルを見学したりしましたが、中でもclerkingという問診をとるレポートにまとめ発表すること、現地の学生とteachingというベッドサイドで行われるレクチャーに参加することが非常に有意義でした。英国の医療は身体所見を重んじる傾向があるとは聞いていましたが確かに身を以て体験することができました。また、英国ではNHSという医療制度の下、GP※とhospitalが完全分業されており、様々な面で日本と違う制度が数かれています。その現場を見ることができ、良い経験になりました。この留学は英国で臨床実習をするという貴重な体験ができると共に他大学の医大生と交流を持つことができるところが良いところだと思います。私は様々な面で刺激を受けました。応募のためにご尽力頂いた皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。(※GP:家庭医 general practitioner)

M6 西郷 紗絵(私立 静岡雙葉高等学校 卒業)

MD・PhDコース

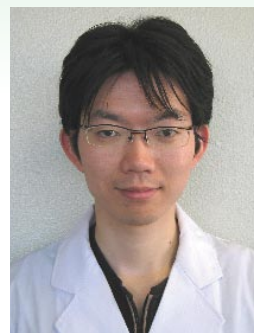
### M6 上田 佳朋さん —MD-PhDコースで研究も続けています

「MD-PhDコース」は、医学生のうちから研究を始めることを応援していただけるコースです。現在10人を超える仲間がこのコースに足を踏み入れ、各々研究室は異なるものの、先生方のご指導の下、講義や実習の合間を縫って研究を行っています。私自身、基礎医学の教室で研究を志すということは、入学当初は思ってもみませんでした。けれども現在は一日の実習が終了した後に、ピペット※を握りしめる日々を送っております。

そもそも本格的に医学を志した折から脳と心の関係に興味を抱いていた私は、大学3年時の基礎研究を体験する「基礎自主研修」で脳神経生理学教室に所属し、「環境刺激の多い環境でラットを飼育すると脳にどのような変化が起こるか」に取り組みました。行動解析を進めるうち、今まで明らかでなかった新たな知見を、自分の手で掴むオモシロさにもうまじく魅力を感じました。

現在の医療が完璧でない以上、少しでも多くの人の命を救い、QOLを向上させるため、医学研究は不可欠なものであると信じています。奨学金によるご支援をいただいている川久保己代子様をはじめ、多くの先生方、職員のみなさまに感謝を忘れず、少しでも医療の発展のための研究をしていければと切に望んでおります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。(※ピペット:液体を吸うときに使う実験器具)

M6 上田 佳朋(私立 東海高等学校 卒業)



上田 佳朋さん

## 大学院生

### 博士課程 産科婦人科学教室所属 大瀬戸 久美子さん —大学院博士課程に進学して



平成20年度に設置された  
修士課程1期生の大瀬戸さんは  
バイオニア!

名古屋市立大学医学研究科修士課程を修了し、現在博士課程に在籍しております。私のバックグラウンドは栄養学なのですが、学部の卒業研究で分子生物学の分野に興味を持ちました。名古屋市立大学は公開講座や学びなおし講座など、自分の興味があれば色々学ぶチャンスが沢山与えられる大学です。私も公開講座で認定遺伝カウンセラーの資格について知り、分子生物学に携わる研究をしつつ認定遺伝カウンセラーの資格も取得したいと考え名古屋市立大学の大学院へ進学することを決めました。医学部は勉強だけに追われて学生生活のQOLが低いのではないかと恐れがちですが、学生実験でも多くのことを学べ、サークルや学外の活動でイキイキ学生生活を送っている医学部生とそれを温かく見守り、成長させてくれている先生方を見て私も積極的に、また楽しく研究生生活を送ることができています。研究室間の交流もあり閉鎖された場所というイメージは全くありません。海外や他施設の研究者の方をお迎えした勉強会も積極的に開催されています。遺伝カウンセリングの実績も多いこの施設には病棟に臨床遺伝医療部という遺伝について落ち着いてお話をうかがえるお部屋も用意されています。臨床遺伝専門医の取得を考えていらっしゃる方の指導もできる先生もいらっしゃいます。自分のやる気と楽しみたいという気持ちがあれば多くのことにチャレンジしていける大学です。何よりも先生方・職員の方達がとても温かく迎えてくださいます。また、修士課程も今年で3年目を迎え、1期生・2期生・3期生合同の飲み会をしたりと学年や年齢の枠を超えて情報交換や交流を持っています。

名古屋市立大学だからこそ経験できる事が沢山あると実感しています。

## 研修医

### 研修医 林 裕子先生 —苦楽を共にする頼もしい仲間達との充実した臨床研修



(研修医2年目 林 裕子先生  
写真下段左から3人目)



名古屋市立大学病院では現在1年目9名、2年目25名の計34名が研修医として働いています。研修医室は学校の教室のような和気あいあいとした雰囲気、わからないことを相談できたり一年目に研修した病院ごとの様々な違いを比較できたりと非常に刺激になります。また、研修医数が適正であり救急当直に忙殺されることなく病棟業務に集中でき、実習の学生に教えることで自分の知識を再確認し、身近にいる専門医に教えることもできるという大学病院ならではの利点もあります。量より質、自分自身の知識や技術を再確認しながらステップアップしていける研修が名大病院にはあります。残りの研修をやり多いいものにできるよう研修医一同、日々努力していきたいと思っております。

## 部活動紹介

### 第6回 馬術部 毎朝7時から活動!

馬術部は現在、部員10名、馬7頭で活動しています。馬術部の歴史は古く、調べられた範囲でOBに昭和17年に御卒業された方がいます。つまり60年以上の歴史があります。

部活の主な活動としては、部員がほぼ毎朝7時前に市大薬学部キャンパスに併設している厩舎に集まり、授業に間に合うように、馬に乗り、そして世話をしています。他の部活動とは異なり、生き物を扱うため毎日の世話や、さらに馬の食費などのためのお金は欠かせませんが、アルバイトを行い、部員同士で協力しながら頑張っています。私自身、大変ですが、大学でしかできない非常に充実した貴重な経験をさせてもらっていると思います。また、部活としては昨年、一昨年と二年連続で全国大会への出場を果たしております。

最後になりますが、毎週土曜日は16時から全体練習を行っています。近くに立ち寄られた際は是非練習風景を見ていただけたらと思います。

馬術部 M4 鈴木 孝典(私立 滝高等学校 卒業)



部員全員が大学入学後に  
馬術に触れたそうです。

鈴木君の騎乗姿!



**環境省** 子どもの健康と環境に関する全国調査  
(通称：エコチル調査)

東海地域  
代表!

# 大規模国家プロジェクトに 名古屋市立大学 が選ばれました!



近年、環境中の有害物が子どもの発育に影響を与えていることが懸念されています。環境省は2010年度より全国15カ所の拠点(ユニットセンター)を設置し、これから生まれてくる国内10万人の赤ちゃんを対象に、胎児期から13歳に達するまで医療と環境の専門家が子どもの成長・発達を見守る全国初の大規模国家プロジェクトを実施することになりました。この世界でも類を見ない調査の東海地域の拠点に、名古屋市立大学が「愛知ユニットセンター」として選定されました。

愛知ユニットセンターでは、本調査事業を地域の子育て支援の核となる取り組みの一つと位置づけて、行政・医師会・関係医療機関等のご協力のもとに、名古屋市北区および一宮市の2地域において3年間で6,000人の妊娠された方に参加して頂く予定です。本年秋以降より、対象となる方に対してご説明と参加のお願いを、各医療施設や保健所・保健センターにおいて行いたいと考えています。今後、各種広報媒体や説明会などを通じて、地域の皆様に本調査事業の詳細をお知らせいたします。どうぞ本調査事業の趣旨をご理解頂き、ご協力下さいますようお願い申し上げます。



ユニットセンター認定書授与式  
(2010年4月12日、環境省第一会議室)  
小沢鋭仁環境大臣(写真右)より「愛知ユニットセンター認定書」を受け取る戸莉創学長(写真左)

## ひとこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!ご無沙汰している同級生に、恩師に「ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたと思います。

例えばこんな一言を、

- 研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」
- ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」
- 新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」
- などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は10月号です)

- 一言メッセージ(30字以内)
- 卒業年度
- お名前(ふりがな)
- \*匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。
- \*4.住所 5.電話番号またはE-mailアドレス

《受付》〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp  
名古屋市立大学医学部広報誌「一言メッセージ」係宛

\*お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません\*

広報誌：瑞 医(ずい)

発行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部  
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1  
TEL (052) 853-8077 FAX (052) 842-0863

**URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp>**

※次号の発行は平成22年10月下旬発行予定です。[年3回 2月・6月・10月]

☐  
**我こそは  
通信員!**

広報誌「瑞 医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp または医学部事務室 広報担当まで